

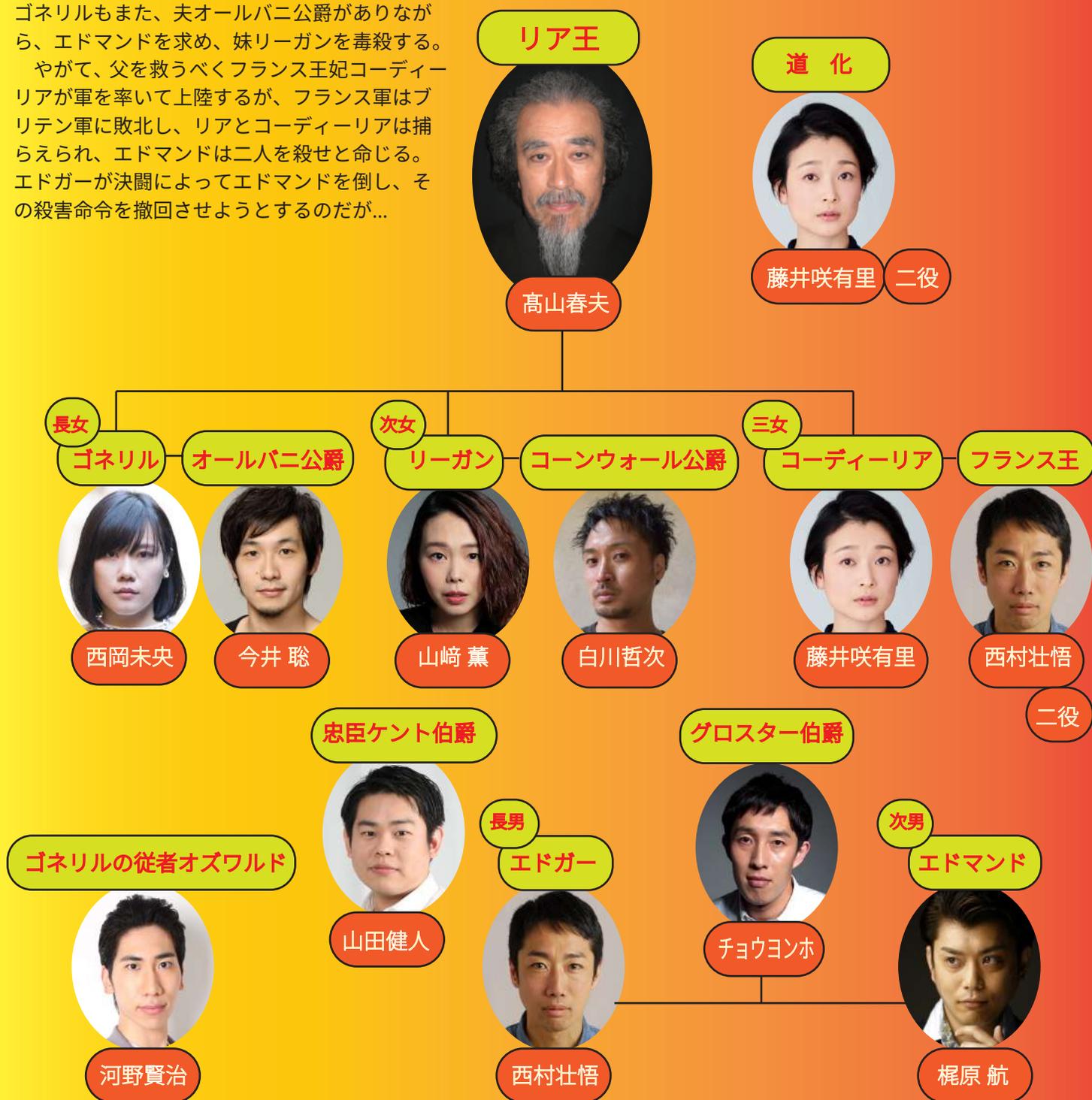
## 『リア王』 あらすじ

古代ブリテン王リアは、王国の統治を娘夫婦に任せて引退を決意。3人の娘たちに父への愛を語らせ、その言葉に応じて王国を3分割するという。長女ゴネリルと次女リーガンは領土欲しさに追従を言うが、三女コーディーリアは言葉を飾ることができず、リアの怒りを買ひ、勘当される。これを止めようとした忠臣ケント伯爵は追放される。だが、その後、権力を得たゴネリルとリーガンはリアに冷たく当たり、リアと道化を嵐の吹きすさぶ戸外へ締め出してしまう。

副筋では、グロスター伯爵の次男で婚外子のエドマンドが、自分に相続権がないことを恨んで、兄エドガーと父とを騙し、出世を狙う。兄は「きちがい乞食」に扮して荒地をさまよう。リアの味方をしたグロスターは、リーガンとその夫コーンウォール公爵に拷問されて両目を潰される。エドマンドは、ゴネリルとリーガンを同時に口説き、リーガンは夫が死んだのをいいことに、エドマンドとの結婚を考える。

ゴネリルもまた、夫オールバニ公爵がありながら、エドマンドを求め、妹リーガンを毒殺する。

やがて、父を救うべくフランス王妃コーディーリアが軍を率いて上陸するが、フランス軍はブリテン軍に敗北し、リアとコーディーリアは捕らえられ、エドマンドは二人を殺せと命じる。エドガーが決闘によってエドマンドを倒し、その殺害命令を撤回させようとするのだが...



## 河合祥一郎新訳・演出の特徴

シェイクスピアの四大悲劇の一つ『リア王』には、クォート版『リア王の物語』(1608年出版)とフォーリオ版『リア王の悲劇』(1623年出版)の2つの底本があり、シェイクスピアが改訂したと言われています。今回は改訂後のフォーリオ版を基に、普通3時間以上かかるこの大作を90分に凝縮してお届けします。

主演に、読売演劇大賞優秀作品賞受賞作『屠殺人ブッチャー』のタイトルロールを演じた高山春夫さんをお迎えし、新国立劇場演劇研修所を卒業して活躍の目覚ましいプロの若手俳優たちが共演します。ぜひご期待ください。